

コロナ禍の世界

横浜市駐在員リポート

27

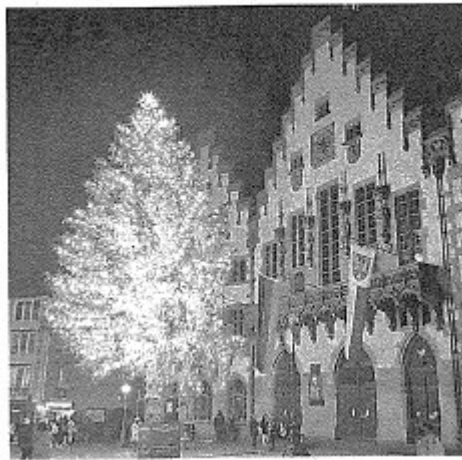
ドイツでは、例年11月末から「クリスマスマーケット」が開催される。まぼゆい装飾が施された「聖樹」もみの木と趣向を凝らした演出により、街の中心部は鮮やかに彩られる。

「三大クリスマスマーケット」とされるニュルンベルク、シュトゥットガルト、ドレスデンをはじめとした

めたロックダウン（都市封鎖）を来年1月10日まで延長することで合意した。これにより、ドイツ全土で大規模なクリスマスマーケットを開催することは、事実上不可能となった。

クリスマスマーケットの起源には諸説あるが、公式文書にある記録としては1393年にフランクフルト

フランクフルト



フランクフルト市庁舎前に設置されたクリスマスツリー。例年クリスマスマーケットでにぎわっている広場も閑散としている
＝8日

我慢のXマス 収束待っ

大規模なマーケットが開催される各都市には、国内のみならず世界中から人々が訪れ、年間を通じて最もにぎわう季節となる。

しかし、今年は違う。12月2日、メルケル首相と各州知事はコロナ対策定例会議を開催し、11月2日に始

で開催されたのが最古とされている。その伝統あるマーケットの開催中止を決めたフェルトマン市長は「私も私たちのクリスマスマーケットが恋しい。皆さんが健康で、すてきなクリスマスを迎えることを願っている」と談話を発表した。

ドイツでは、第2波による感染拡大の勢いが衰えを見せず、収束の見通しも立っていない。12月15日には1日当たりの死者数が952人を数え、過去最多を更新した。

「今すべてを知ろうとするな。雪が解ければ見えてくる」。〈ゲーテ詩集第1巻より、筆者仮訳〉

コロナ禍との付き合いは、今後も続きそうである。先を焦らず、じっくりと春の到来を待ちたい。

（横浜市フランクフルト事務所長・玉井 猛）

「おわり」